

## 関 弥生さんを思う

恒石 直和

平成 9 年（1997）11 月 1 日、高知県立文学館は橋本大二郎知事の深い理解と橋田憲明館長や職員の全面協力により見事にスタートし、内外多数の皆様や市民の祝福を受けました。

当日夕刻、寺田寅彦資料収集に当たった山田一郎氏と寺田家遠縁にあたる文学者安岡章太郎氏の記念講演がありました。

満員の入場でしたが前 2 列目に関弥生さんが思いもかけず座っておられました。この朝の飛行機で高知へこられ、墓参りをされる時、私は、杖をついておられた弥生さんの左手を支え、東久万王子谷の寺田家の墓所を案内し、そのお元気な様子に安心したことです。

この時以来、弥生さんとは大変近しくなっていました。弥生さんからは、父寅彦の思い出など度々便りがあり、私の方からは、寺田寅彦記念館友の会の様子、特にオルガンを聞く会や夏休み寺田子ども科学教室、また縁の地巡りなどの活動状況を写真を添えて送りました。返信の親書は枚挙にいとまがありません。末尾には必ず「お体大切に」と結んでありました。私には毎回の文面が極めて明快で、鋭くもあり、情をつくされて書かれていることが即伝わってきました。疑問に思っていることへの返信等も条理をつくして、納得以上に感服したことが多かったように思います。

弥生さんが撮影された写真には野鳥、花、雲等があり自然観察眼の的を射たような美しさでした。

平成 14 年ごろから弥生さんは、高知新聞、榊に執筆をされています。タイトルを紹介しておきます。

「高知への初旅」	H14, 10, 30	高知新聞
「軽井沢の夏」	H15, 8, 5	高知新聞
「板橋の家」	H14, 2	榊 32 号
「千倉の夏」	H14, 11	榊 35 号

「高知への初旅」は、ういういしい貴重な記録。「軽井沢の夏」は、寅彦親子の団らんをつぶさに書いておられます。日記を元にした貴重な記録です。

### 弥生さんの片々

#### 1 高知県立文学館関係

中谷宇吉郎さんが書かれた「雪は天から送られた手紙である」の掛け軸は弥生さんご主人関四郎さんに贈られたものです。弥生さんの決断で今は県立文学館にあり、寺田寅彦記念館でも展示されました。

平成 24 年 9 月県立文学館で民放テレビの寺田実験「割れ目と生命」のビデオ撮りがありました。この機に寺田寅彦の原稿と、弥生さん制作の猫の皮写しと手縫いの作品を初見、

昭和 10 年作の生々しさを目のあたりにし感動  
一入でした。

## 2 寺田寅彦記念館関係

弥生さん死去後、新寺田寅彦全集 30 巻が寄  
贈され、記念館はやっと念願が叶いました。

## 3 はがき・手紙のこと

弥生さんは 90 歳を過ぎてからもお元気でした。高知新聞や榦に寄稿されました。他に私信も多数です。次男関直彦さんの了解を得た 2, 3 の文面をご覧ください。弥生さんは寅彦を最も土佐に近づけました。

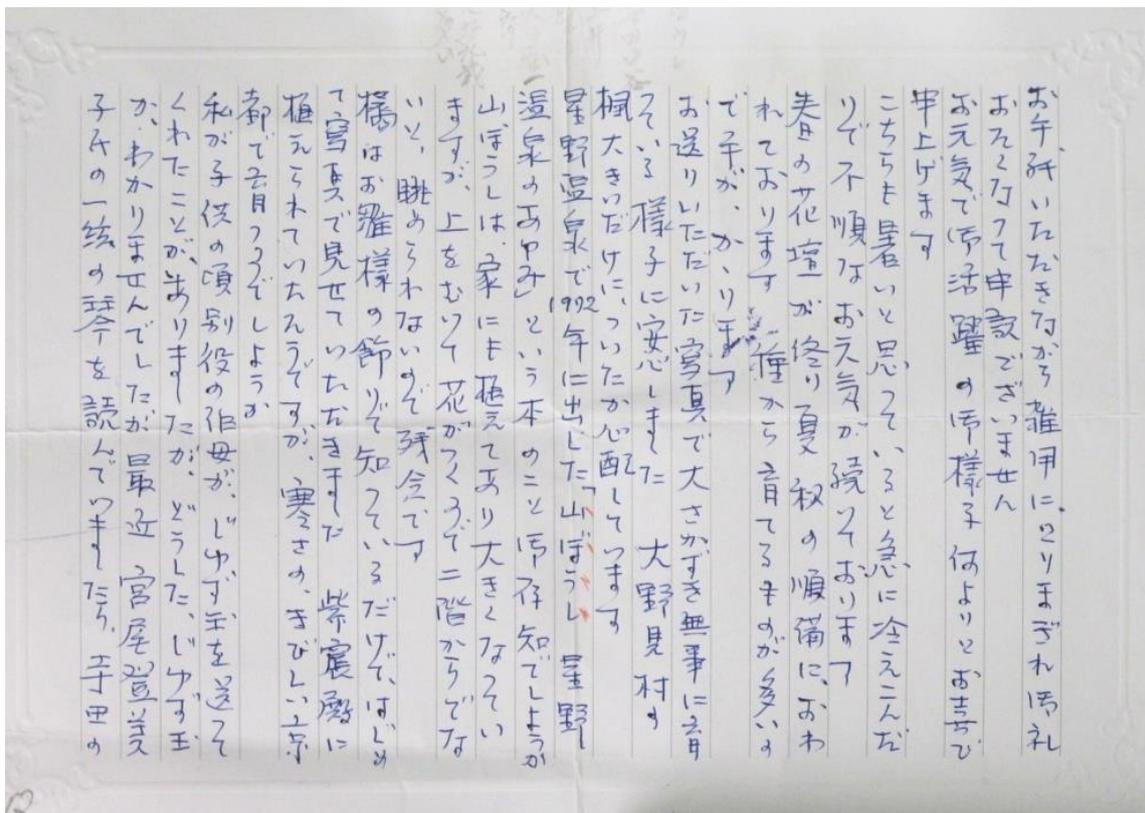
## 4 その他印象に残っていること

- 私は板橋の家跡は、3 回訪ねました。往時を弥生さんからは、板橋に因むバートン (アメリカの女流作家) の「小さなおうち」を紹介され、板橋の歴史に酷似していることを教えられました。バートンの童話は大変興味深く、勉強になりました。
- はじめての蓄音機で聴いた童謡「どんぶらこ」についての思い出を弥生さんから教え



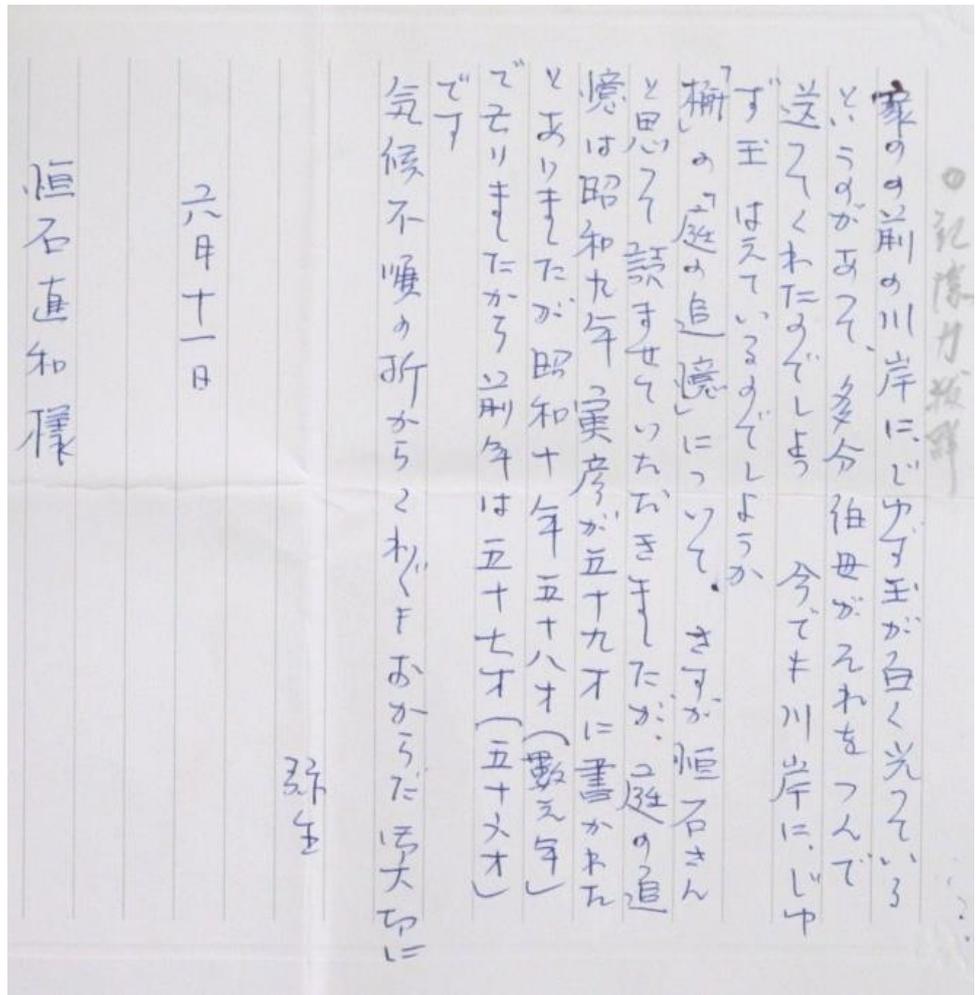
写真：晩年の関弥生さん

筆者が関弥生さんから頂いた手紙 (1)

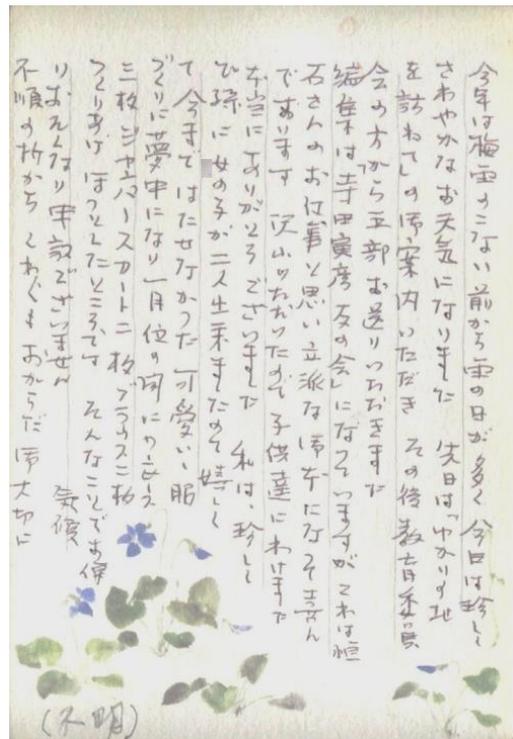
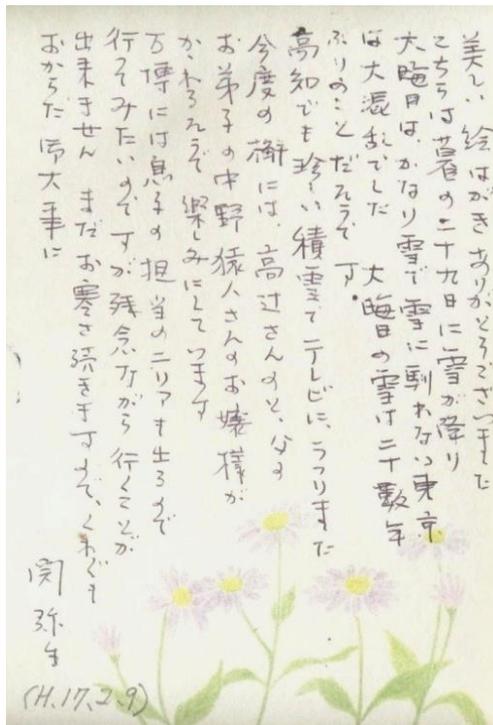


ていただき、私も少しこの子どもの音楽を追求したことで、なんだか生活の糧になったような気がしたことです。

- ・弥生さんは、寺田関係人物等を客観的に評価できる力量の持ち主だったようです。文面や対話を通してこの方は賢夫人だと思い、学ぶこと多大でした。



筆者が関弥生さんから頂いたはがきの中からの2通



先日はお子様ありがとうございました  
 近所に桜あちこちにありすすいでほ度も四時過ぎりに行ったり庭  
 仕事も加わり忙しくて停社おくわて申談ありせん  
 今年も桜の開花思ったより早く西陣の桜に雪が降り、びくりし  
 ました。これは観測史上二十五年度の目撃した事です  
 私が行ったこともない祖先のお墓まわりにして下さる字書にこそ見せて  
 いたわってありがとうございました  
 騎さんにおあいになったことあるを、女の人にしては大柄で子供達  
 も皆背が高かったよう々々 家系図にある順という方は三番目  
 の男で、若く高知では男の子が三人流くと女の名前をつけてたえ、  
 私達は不順さんとよんでいました 軍で北川家の花江という人と  
 結婚して北川家の養子になり精という方は多分今旦那だと思いま  
 子供がいなくなつたので私達はかわいがるもろい子と下  
 駒さん息子達は早く死でしたが養子に行つた順が一番長生  
 きてして娘の北田俊は道路の向う、私が相読したところの一角  
 に健在です  
 四月四日に二番目の曾孫が生まれ女の子で喜んでいます  
 うちは四人の男の子に孫七人うち女の子は一人、曾孫男一人  
 なつて女の子は珍しいです  
 今年は暖かいと思つたが又寒かつたりです、くわくまお体およい  
 下さつたせ

34.4

四月九日

恒石直和様

筆者が関弥生さんからいただいた手紙（2）



写真：関弥生さんが丹精込めてつくられた花一杯の庭  
（提供：関直彦様）